

令和7年度第1回
埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議

資料

議題

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について
2. 前回会議の振り返りと今後のケアラー支援の方向性について
3. ケアラー支援に関する意見交換について

1. ケアラー支援に関する令和6年度の 取組実績について

- 第2期ケアラー支援計画に基づく令和6年度取組実績を整理
- 具体的には、指標の進捗や関連事業の実施状況を掲載
- 整理した内容を基に、実績について御議論をお願いしたい

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

基本目標1 ケアラーを支えるための広報啓発の推進

【主な取組】

- ケアラー月間（11月）での集中的な啓発等

基本目標2 行政におけるケアラー支援体制の構築

指標① ワンストップ型総合相談窓口等の設置市町村数
（目標値）令和9年4月1日 全市町村

【主な取組】

- 市町村へのアドバイザー派遣、研修等の実施

基本目標3 地域におけるケアラー支援体制の構築

指標② 介護者サロンを設置する市町村数
（目標値）令和9年4月1日 全市町村

【主な取組】

- 介護者サロン等運営実践マニュアルの作成
- 介護者サロン設置・運営支援研修

基本目標4 企業におけるケアラー支援体制の構築

指標③ ビジネスケアラーに関するセミナー等受講企業数
（目標値）令和6～8年度の累計 2,000企業

指標④ 地域包括支援センターの認知度（30～50代）
（目標値）令和8年度 70%

【主な取組】

- 仕事と介護の両立のための啓発動画の作成
- 企業の経営者・人事労務担当者向けセミナー

基本目標5 ケアラーを支える人材育成

指標⑤ ケアラー支援を担う人材の育成数
（目標値）6,000人（令和3～8年度の累計）

【主な取組】

- ケアラー支援関係機関向け研修
- 地域福祉活動者向け研修
- 県政出前講座の実施

基本目標6 ヤングケアラー支援体制の構築・強化

指標⑥ ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修
の受講者数
（目標値）2,000人（令和3～8年度の累計）

指標⑦ こどもの居場所の数
（目標値）令和8年度 800か所以上

【主な取組】

- ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修
- ヤングケアラー・若者ケアラー向けLINE相談の実施
- ヤングケアラー・若者ケアラー向けオンラインサロンの開催
- ヤングケアラー支援スタートブックの活用
- ヤングケアラー授業デザインキットの活用
- こどもの居場所づくりアドバイザーの派遣
- こどもの居場所フェアの開催

・第2期ケアラー支援計画（R6～R8）の6つの基本目標に沿い、各種取組を実施

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標①

(行政におけるケアラー支援体制の構築)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
ワンストップ型総合相談窓口や複合課題を調整するチームの設置市町村数	51市町村(R5.4.1)	全市町村(R9.4.1)	全市町村(R7.4.1)

主な取組実績

■市町村へのアドバイザー派遣

総合相談支援体制の構築や重層的支援体制整備事業の実施に取り組む市町村へ、アドバイザーを派遣(随時)

- ・派遣市町村数 11市町(熊谷市、行田市、所沢市、本庄市、春日部市、深谷市、草加市、入間市、朝霞市、志木市、飯能市・所沢市・入間市(3市合同))(R6)



アドバイザーによる講義

■研修会・情報交換会

○総合相談支援体制構築に係る説明会・情報交換会

- ・内容：国による制度の説明や川口市による事例発表、市町村同士の情報交換を実施

- ・実績：受講者数321名(R6)

○重層的支援体制整備事業研修

- ・内容：愛知県豊明市職員による基調講演やグループワーク等を実施
- ・実績：受講者数138名(R6)



研修の様子

- ・57市町村(R6.4.1)→63市町村(R7.4.1)と、目標を達成
- ・個々の市町村のニーズに合わせたアドバイザー派遣や、研修会等による情報提供が奏功
- ・未設置市町村へは、県職員が個別に訪問し、状況を確認するなど積極的な情報収集も実施

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標②

(地域におけるケアラー支援体制の構築)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
介護者サロンを設置する市町村数	55市町村(R5.4.1)	全市町村(R9.4.1)	57市町村(R7.4.1)

主な取組実績

■介護者サロン等運営実践マニュアル

- ・介護者サロン等の立上げ・運営の手法をまとめたマニュアルを作成
- ・サロンのコンセプトや運営体制、事前準備から当日の進め方まで、具体的かつ実践的なポイントを掲載
- ・運営事例も数を増やし、最新の内容で紹介

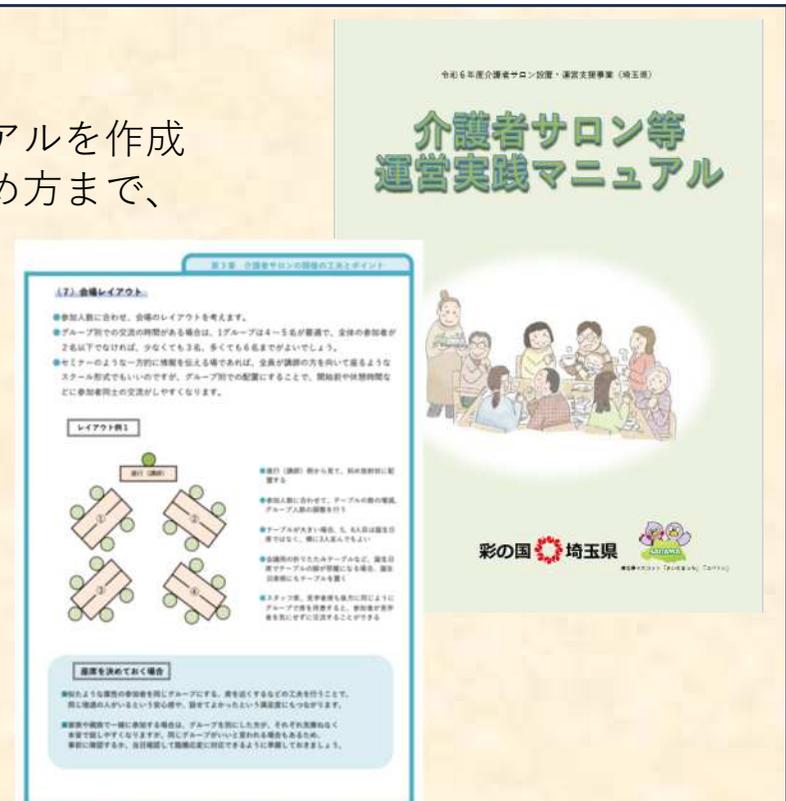
■介護者サロン設置・運営支援研修

○基礎研修

- ・内容：ケアラーの実態や支援の必要性、介護者サロンの必要性・効果などを説明
- ・実績：受講者数367名(R6)

○実践研修

- ・内容：基礎研修の振り返りとともに、立上げ・開催の工夫やポイントなど、実践的な内容を説明
- ・実績：受講者数65名(R6)



- ・54市町村(R6.4.1)→57市町村(R7.4.1)と、設置市町村数は増加
- ・運営実践マニュアルの作成や、当該マニュアルに準拠した内容での研修実施が奏功
- ・未設置市町村へは、県職員が個別に訪問し、状況を確認するなど積極的な情報収集も実施

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標③

(企業におけるケアラー支援体制の構築)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
ビジネスケアラーに関するセミナー等受講企業数	—	2,000企業(R6～R8の累計)	397企業(R6)

主な取組実績

■企業の経営者・人事労務担当者向けセミナー

○労働セミナー「働きながら介護をする人たち」

- ・ 内容：社会背景、両立支援が与える影響及び重要性、従業員の実情、企業が取り組むべき両立支援のアクションなど
- ・ 実績：受講企業数133企業(R6)

○働き方改革セミナー「経営戦略としての介護離職防止対策」

- ・ 内容：従業員へのアプローチから、介護が始まった社員への支援、現在休暇取得中の社員に対するフォローアップなど
- ・ 実績：受講企業数258企業(R6)

■県政出前講座

○「ビジネスケアラー支援について～仕事と介護の両立のために～」

- ・ 内容：①介護を取り巻く現状
②介護への向き合い方
③仕事と介護の両立のために（5つのポイント）
- ・ 実績：受講企業数6企業(R6)



- ・ R6の実績は397企業と、R8末の目標達成に向けて更なる取組の強化が必要
- ・ セミナーは、必要とする企業に情報を届けられるよう、SNSでの情報発信など周知方法を工夫する
- ・ 出前講座は、チラシの作成・配布など更なる周知により、多くの企業に活用いただけるよう取り組む

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標④

(企業におけるケアラー支援体制の構築)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
地域包括支援センターの認知度 (30～50代)	43.7%(R5)	70.0%(R8)	48.6%(R6)

主な取組実績

■ 配信動画「仕事と介護の両立のために」

- ・ 仕事と介護の両立に向き合った方々のインタビューを収録
- ・ 介護離職の現状や望まない介護離職を防ぐための知識・心構えを説明
- ・ インターネット広告や、協会けんぽ・経営者協会等の御協力により周知
- ・ 実績：視聴回数16,834回 (R7.7.15現在)



■ 配信動画「ビジネスケアラーを支える強い味方 地域包括支援センター」

- ・ お笑いコンビ「レギュラー」がMCとなり、テレビ番組形式で進行
- ・ 専門家や地域包括支援センター職員が、仕事と介護の両立のコツを説明
- ・ 協会けんぽ・経営者協会等の御協力により企業等を通じ従業員に周知
- ・ 実績：視聴回数2,775回 (R6)



■ 11月のケアラー月間における集中的な広報啓発

- ・ 市町村、金融機関、県有施設、埼玉高速鉄道駅などのサイネージで放映
- ・ 県内22市町でのパネル展開催、イオンレイクタウンでのイベント開催等



- ・ 地域包括支援センターの認知度は4.9%向上するも、いまだ50%に至らず
- ・ 仕事と介護の両立のポイントなどを分かりやすく伝えるコンテンツは充実
- ・ 自分ゴトとして捉えてもらうため、企業等を通じて直接、従業員にアプローチすることが重要

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標⑤

(ケアラーを支える人材育成)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
ケアラー支援を担う人材育成数	3,590人(R3～R5の累計)	6,000人(R3～R8の累計)	5,069人(R3～R6の累計)

主な取組実績

■ ケアラー支援関係機関向け研修

- ・対象：市町村、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、社会福祉協議会等の職員
- ・内容：ケアラーを取り巻く状況や課題、支援の必要性のほか、アセスメントの技法等について説明
- ・実績：受講者数798名(R6)

■ 地域福祉活動者向け研修

- ・対象：主任児童委員、民生・児童委員、こどもの居場所運営者等
- ・内容：ヤングケアラーの基本的な理解のほか、元ヤングケアラーの体験談やグループワークも実施
- ・実績：受講者数340名(R6)

■ 地域包括ケアシステム基礎研修

- ・対象：地域包括ケアシステムに関わる市町村や地域包括支援センターの職員、医療・福祉専門職等
- ・内容：ケアラーを取り巻く状況や課題、支援の必要性などについて説明
- ・実績：受講者数341名(R6)



- ・最新値は5,069人と、目標値である6,000人に向け順調に推移
- ・ケアラー支援のための継続的な人材育成が、本県ケアラー支援の裾野拡大に貢献
- ・今後は、家族全体のアセスメントや支援者による取組報告など、より実践的な内容へ充実・強化

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標⑥

(ヤングケアラー支援体制の構築・強化)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修の受講者数	1,078人(R3～R5の累計)	2,000人(R3～R8の累計)	1,439人(R3～R6の累計)

主な取組実績

■教育・福祉合同研修

- ・対象：学校の教員、市町村の福祉担当課の職員等
- ・内容：ヤングケアラーの基本的な理解や支援体制づくりのポイントに係る説明のほか、市町村の事例発表やグループワークなどを実施
- ・実績：受講者数361名(R6)



■その他のヤングケアラー（若者ケアラー含む）支援の取組

○LINE相談窓口

- ・内容：元ヤングケアラーの相談員が経験に基づきアドバイス、話を聴いてほしいというだけでも利用可
- ・実績：登録者数985名(R7.7.15現在)

○オンラインサロン

- ・内容：気軽に不安や悩みを話すことができるピアサポートの場として、オンラインで開催
- ・実績：参加者数339名(R6) ※R6はメタバース空間でも実施

○ヤングケアラー支援コーディネーター

- ・内容：市町村への助言、事例収集、支援情報の周知、LINE相談と連携した支援のコーディネート
- ・実績：利用件数124件(R6)

- ・最新値は1,439人と、目標値である2,000人に向け順調に推移
- ・学校の教員と福祉の職員が同じテーブルで事例検討等を行い、顔の見える関係づくりを実現
- ・文部科学省主催で、全国の教育相談担当職員・指導主事が出席する協議会で先進事例として紹介

1. ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

指標⑦

(ヤングケアラー支援体制の構築・強化)

指標名	計画策定時の値	目標値	現状値
こどもの居場所の数	628か所(R4)	800か所以上(R8)	734か所(R5)

主な取組実績

■ こども・若者と共につくる居場所づくりの支援

○ こどもの居場所フェア埼玉

- ・ 内容：こどもの居場所の認知拡大や潜在的な担い手の掘り起こしを目的に、こども食堂による飲食ブースやプレーパーク団体による屋内遊び場の提供、ステージイベントなどを実施
- ・ 実績：来場者数13,920名(R6)

○ こどもの居場所づくりアドバイザー

- ・ 内容：各地域にアドバイザーを派遣し、こどもの居場所の新規立ち上げと継続的な運営を支援
- ・ 実績：派遣回数138回、新規立ち上げ件数22件(R6)



- ・ 最新値は734か所と、目標値である800か所に向け順調に推移
- ・ こどもの居場所の認知拡大や機運醸成、アドバイザー派遣による新規立ち上げ支援などが奏功
- ・ 今後は、数だけでなく質の面や運営継続が重要であるため、地域ネットワークの構築を促進

1.ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

第2期埼玉県ケアラー支援計画に係る指標の達成状況

指標	計画策定時	目標値	実績値
ワンストップ型総合相談窓口や複合課題を調整するチームの設置市町村数	51市町村 (令和5年4月1日)	全市町村 (令和9年4月1日)	全市町村 (令和7年4月1日)
介護者サロンを設置する市町村数	55市町村 (令和5年4月1日)	全市町村 (令和9年4月1日)	57市町村 (令和7年4月1日)
ビジネスケアラーに関するセミナー等受講企業数	-	2,000企業 (令和6～8年度累計)	397企業 (令和6年度累計)
地域包括支援センターの認知度(30～50代)	43.7% (令和5年度)	70.0% (令和8年度)	48.6% (令和6年度)
ケアラー支援を担う人材育成数	3,590人 (令和3～5年度累計)	6,000人 (令和3～8年度累計)	5,069人 (令和3～6年度累計)
ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修の受講者数	-	2,000人 (令和3～8年度累計)	1,439人 (令和3～6年度累計)
こどもの居場所の数	628か所 (令和4年度)	800か所以上 (令和8年度)	734か所 (令和5年度)

- ・ワンストップ型総合相談窓口等の設置は、市町村への個別訪問などにより、全市町村設置の目標を達成
- ・介護者サロンの設置も同様に、個々の市町村の状況に応じた助言を行い、着実に実績値が伸長
- ・仕事と介護の両立支援に係る指標は、企業側にも従業員側にも更なる普及啓発のアプローチが必要
- ・ケアラー支援に係る人材育成やこどもの居場所の数については、順調に推移

1.ケアラー支援に関する令和6年度の取組実績について

関連する事業の実施状況

計画に関連する216事業（再掲による重複を含む）についての自己評価は以下のとおり。

(1) 自己評価結果 ※詳細は参考資料参照

「A」 … 取組実績が予定を上回った 41事業

「B」 … 取組実績が予定どおりだった 175事業

改めて、

- 指標の進捗や関連事業の実施状況を踏まえ、実績について御議論をお願いしたい

2. 前回会議の振り返りと今後の ケアラー支援の方向性について

- 本会議は、毎回の御議論の内容を着実に次の回に反映
- 議論の積み重ねが本県ケアラー支援施策のレベルアップに結実
- 前回は、以下の3点について議論
 - ①ビジネスケアラー（又はワーキングケアラー）支援
 - ②ヤングケアラー・若者ケアラー支援
 - ③その他ケアラー支援全般
- ①～③に関し、主な御意見やその対応状況を整理
- 整理を基に、今後の支援の方向性をまとめたので御意見等を賜りたい

①ビジネスケアラー(又はワーキングケアラー)支援

■ 配信動画「仕事と介護の両立のために」

- ・様々なデータや、仕事と介護の両立に向き合った方々のインタビューを収録
- ・介護離職の現状や、望まない介護離職を防ぐための知識・心構えを説明
- ・企業にお勤めの方以外の方にも見ていただくため、インターネット広告を実施
- ・協会けんぽや経営者協会のメルマガなどにより、企業等を通じて従業員に周知
- ・視聴回数 16,834回(R7.7.15現在)



■ 企業の経営者・人事労務担当者向けセミナー

○ 労働セミナー「働きながら介護をする人たち」

- ・内容：企業経営層及び人事労務担当者向けに、仕事と介護をめぐる社会背景や両立支援の重要性、企業が取り組むべきアクションなどを分かりやすく解説
- ・実績：受講企業数133企業（R6）

○ 働き方改革セミナー「経営戦略としての介護離職防止対策 ～仕事と介護の両立支援～」(オンライン開催)

- ・内容：仕事と介護の両立をテーマとした講演や、先進企業による事例紹介・パネルディスカッションを実施
- ・実績：受講企業数258企業（R6）



■ 配信動画「ビジネスケアラーを支える強い味方 地域包括支援センター」

- ・お笑いコンビ「レギュラー」がMCとなり、専門家や地域包括支援センター職員とともに軽妙なトークを展開
- ・仕事と介護の両立のコツをバラエティ番組のような構成で、分かりやすく説明
- ・協会けんぽや経営者協会のメルマガなどにより、企業等を通じて従業員に周知
- ・視聴回数 2,775回 (R6)



■ 啓発イベント

- ・イオンレイクタウンにて啓発イベントを実施(R6.11.24)
- ・著名なお笑い芸人が複数登壇し来場者の関心を惹起
- ・お笑い芸人によるネタの披露で堅苦しさを払拭
- ・「みんなで学ぼう！ ケアラークイズ」により楽しみながら、ケアラーのことを理解

会場の様子



2.前回会議の振り返りと今後のケアラー支援の方向性について

R6第2回会議の論点整理(ビジネスケアラー(又はワーキングケアラー)支援)

主な意見と現状での県の対応

【包括の認知度向上に向けた広報啓発】

- **関心がなく、これから自分ごとになる働き盛り世代にいかに関心を得るかが課題**
 - ☞ 埼玉高速鉄道等でのメッセージ動画放映、イベント開催、インターネット広告など、プッシュ型で情報発信
- **企業の経営層などに向け、地域包括支援センターや介護施設の利用について説明することが必要**
 - ☞ 包括の役割はR6作成動画の中で分かりやすく説明、周知も協会けんぽや経営者協会等を通じ実施
- **地域包括支援センターに、土日などに直接会って相談できないことが1つの問題点**
 - ☞ 土日や夜間に対応している包括があることも動画で周知

【その他(実態把握、ACP、事例集)】

- **ビジネスケアラーの実態把握について、具体的に施策として考えていく必要がある**
 - ☞ 各企業が経営課題として捉え、具体の実施に繋げることが大事
- **人生会議(アドバンスケアプランニング)の普及啓発もお願いしたい**
 - ☞ 普及・啓発用のリーフレット・DVDの作成、保険会社との連携による普及啓発を実施
- **仕事と介護の両立事例集は、企業や働いている方への周知をお願いしたく、周知への協力も可能**
 - ☞ 関係機関等と連携し、企業や従業員へ幅広く周知する予定

意見の総括・今後の方向性

- 県では仕事と介護の両立支援のため様々な啓発を行ってきたが、依然**働き方盛り世代**へのアプローチは課題
- また、**企業経営層**を通じた地域包括支援センターなどに関する普及啓発が重要
 - ☞ **働き盛り世代への啓発**や**金融機関との連携による企業経営層へのアプローチ強化**が必要ではないか

②ヤングケアラー・若者ケアラー支援

■ 埼玉県ヤングケアラーチャンネル

○ 相談対象

埼玉県内のヤングケアラー及びその保護者等

○ 開設時間

平日11:00～20:00（相談者からの送信はいつでも可能）

○ 特徴

- ・話を聴く相談員は全員元ヤングケアラー、経験者だからこそできる共感アドバイス
- ・相談でなくても構わず、ただ話を聞いてもらいたいといった方も登録可能。
- ・令和6年度から対象を若者ケアラーにも拡大、進路や就職などキャリア相談にも対応

○ 実施時期

令和4年9月20日開設

○ 登録者数

907名(R7.2.10現在) ← 793名(R6.6末、第1回会議時)



■ オンラインサロン

○ 相談対象

埼玉県内のヤングケアラー・若者ケアラー

○ 開催日

概ね毎月1回1時間程度（20:00～21:00、途中参加・退出可）

○ 特徴

- ・普段感じている不安や悩みを気軽に話し、息抜きをしてもらう場
- ・話したくないことは、話さなくて大丈夫
- ・オンライン開催で、声を出しづらければチャットのみでもOK
- ・Zoom、YouTubeLive、リアルでの実施

○ 新たな試み

- ・R6.11.30に初めてメタバー空間で実施
- ・元ヤングケアラーやヤングケアラー支援コーディネーターがトークを展開、疑問にもお答え
- ・希望者には個別相談も実施

○ 実績

- ・参加人数 279名（Zoom、YouTubeLive、リアル、メタバーの合計、R7.1末現在）



これまでの調査を踏まえた取組

調査結果から

- ヤングケアラー、若者ケアラーともに悩みや不安を打ち明けられる場を望んでいる
- ケアラーの自覚がなく、顕在化していない可能性もあり、存在への気付きも重要
- 直接的な支援につなげるには関係機関等の人材育成が肝要

県の取組

- 「埼玉県ヤングケアラーチャンネル」（LINE相談）
- ヤングケアラーオンラインサロン
- 「ヤングケアラーハンドブック」の作成・配布
- 地域福祉活動者向け研修
- 「埼玉県におけるヤングケアラー支援スタートブック」
- ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修
- 「ヤングケアラーサポートクラス」（出張授業）

**今後は、小中高の学校に加え、大学・短期大学など
若者ケアラーへのアプローチを充実させるべきではないか**

2.前回会議の振り返りと今後のケアラー支援の方向性について

R6第2回会議の論点整理(ヤングケアラー・若者ケアラー支援)

主な意見と現状での県の対応

【支援者支援】

- **ヤングケアラー支援の取組は1回で終わりではなく、市町村や学校が継続実施することが必要**
 - ☞ 教職員用研修資料を各高校に配布し、各校で自主的にヤングケアラーに関する研修を行うよう依頼
- **家族全体のアセスメントなどをテーマとした研修について、非常に必要性を感じている**
 - ☞ ケアラー支援関係機関向け研修は、家族全体の支援の必要性やアセスメントをテーマに実施
- **研修や啓発により、大人に「ヤングケアラーかも」という視点を持ってもらうことが大切**
 - ☞ 市町村や学校など支援機関には各種研修により、広く県民にはケアラー月間で啓発を実施

【本人支援】

- **ヤングケアラー・若者ケアラー支援について、大学の学生に向けた周知啓発が必要**
 - ☞ ケアラー月間による周知啓発、埼玉県立大学でのポスター掲示、大学教職員等向け研修の実施
- **具体的に困っているときに必要なサポートや、声を上げられるような場を作ることが重要**
 - ☞ 一部市町村では家事支援や応援金支給を実施、県ではLINE相談・オンラインサロンを実施
- **経験を共有し合えるお兄さん・お姉さんなど、ロールモデルとの出会いも施策で展開できるとよい**
 - ☞ メタバースではヤングケアラー協会の氏原氏が登壇、R7も同様の開催形態が可能

意見の総括・今後の方向性

- 支援者支援は、継続して行うことが大切であるとともに、**家族全体のアセスメント**に係る啓発が重要
- 本人支援は、継続した周知啓発と**具体的なサポートの充実**が求められ、ロールモデルとの出会いも有効
 - ☞ **研修のブラッシュアップ**(家族全体のアセスメント、実践報告等)と**市町村の個別支援の充実**を図るべきではないか

③その他ケアラー支援全般

2.前回会議の振り返りと今後のケアラー支援の方向性について

R6第2回会議の論点整理（その他ケアラー支援全般）

主な意見と現状での県の対応

[多職種連携]

- **役場や支援者側の多職種連携をどのように作るか、という体制づくりにも力を入れる必要がある**
 - ☞ ケアラー支援関係機関向け研修は、家族全体の支援やそれに伴う多職種連携の必要性を啓発
- **医療従事者なら医師会や看護協会など、色々な職能団体も巻き込み多職種連携を進めるべき**
 - ☞ 医療従事者向け研修では、各職能団体への周知や研修における活用呼び掛けを実施予定

[周知啓発]

- **必要な情報をいかに重層的なチャンネルで届けていくかが重要**
 - ☞ ケアラー月間のメッセージ動画やイベント、インターネット広告、協会けんぽや経営者協会等を通じた周知を実施
- **企業から見た情報の洪水を防ぐため、受け手に寄り添った情報提供を考える必要がある**
 - ☞ 県のビジネスケアラー支援を1枚にまとめたチラシの作成を検討

意見の総括・今後の方向性

- **家族全体のアセスメント**やそれに伴う**多職種連携**の必要性を、今後更に啓発することが必要
- 広く県民には多様な機会や媒体を活用した周知を図る一方、企業には**情報を整理**して伝えることが必要
 - ☞ **研修のブラッシュアップ**と、**情報提供における工夫**が必要ではないか

2.前回会議の振り返りと今後のケアラー支援の方向性について

今後のケアラー支援の方向性について

①ビジネスケアラー(又はワーキングケアラー)支援に係る周知啓発の強化・工夫

- ケアラー月間において、働き盛り世代の興味・関心のあるテーマを活用した周知を実施
- 分かりやすく整理された情報提供として、県の**仕事と介護の両立支援施策をまとめたチラシ**を作成
- 企業経営層への直接的なアプローチとして、**金融機関と連携しチラシを配布**

②ケアラー支援研修のブラッシュアップ

- ケアラー支援関係機関向け研修では、**家族全体のアセスメントと多職種連携にフォーカス**
- その他研修でも、**実践者や市町村の活動報告**など、実践的な内容を充実
- 研修の実施に当たっては、広く職能団体等への協力を呼び掛け

③ヤングケアラー支援施策の充実・強化

- 市町村によるヤングケアラー支援施策に関する**情報の把握・整理・横展開**
- 令和7年度の市町村の**各種ヤングケアラー支援施策について照会**
- **県のオンラインサロン**についても、よりヤングケアラーのニーズに沿った運用を検討

改めて、

- 今後のケアラー支援の方向性に関し、御議論をお願いしたい

3. ケアラー支援に関する意見交換について

意見交換いただきたいこと

「有識者会議委員として昨年度 1 年間を振り返り、感じたことや今後重点的に取り組むべきことなど、自由に発言・意見交換いただきたい」

例：

- 住民や支援者のケアラー支援に係る認識の変化
- 御自身の見た他の都道府県や市町村におけるユニークな取組
- 今後のケアラー支援に当たって重要と考えられること など